

近縁な植物の比較

オオアワダチソウ・セイタカアワダチソウ

小林 浩二

オオアワダチソウ (きく科)

生育地、生育型：荒地や空地などに生える多年草。

茎、葉：地下茎を出して横にはう。茎は高さ 100~150cm で普通上部で枝分かれする。葉の数は多く、互生し3本の主脈がよく見える。質はやや硬いがざらつかない。

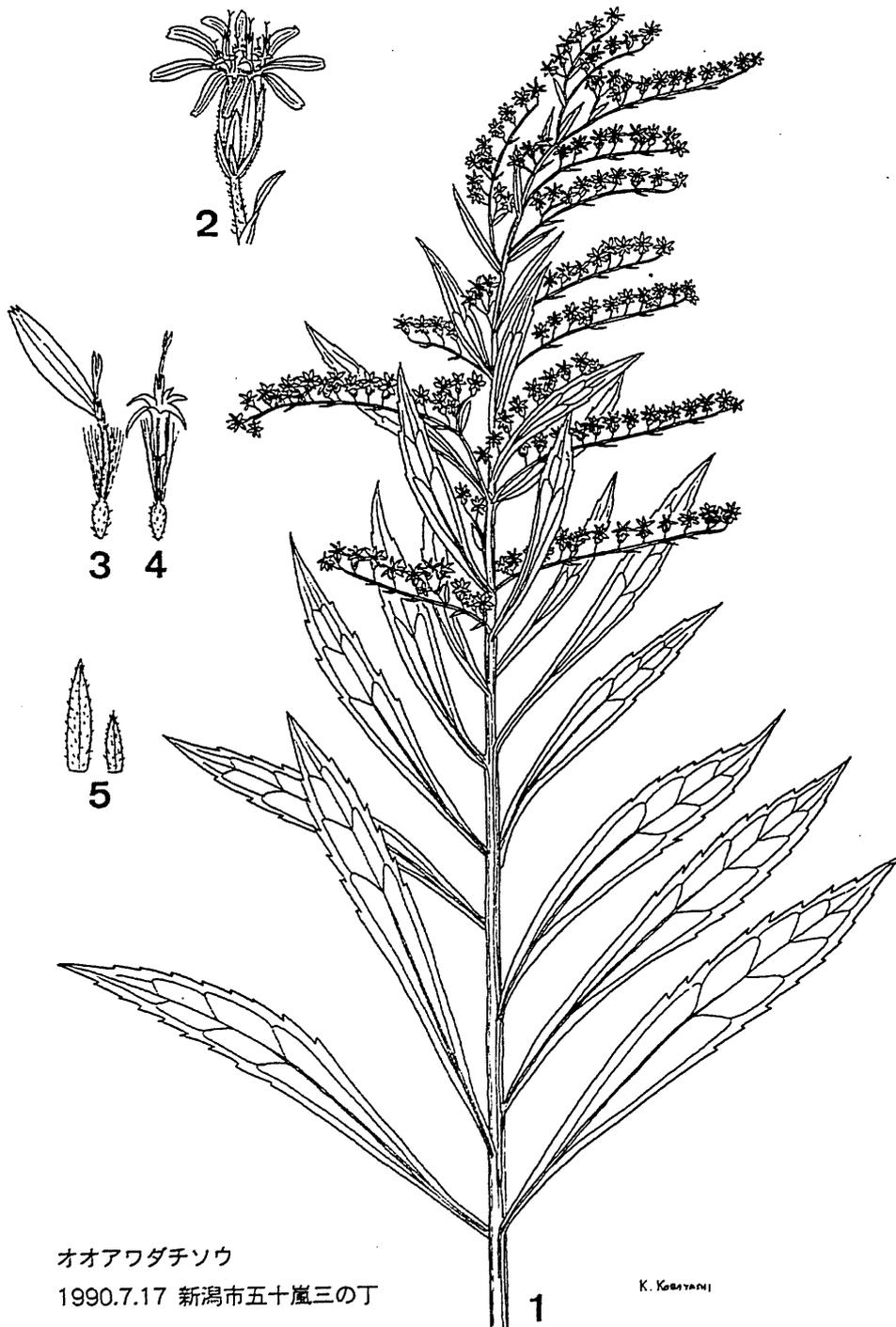
花・果実：花期は7~8月。茎の上部に大きな円錐形の花序をつくり、多数の黄色の頭花をややまばらにつけ、舌状花と筒状花よりなる。そう果には冠毛がある。

ノート：庭に栽培したものが野生化した北米原産の帰化植物。

アワダチソウ (アキノキリンソウ) に似ており大形であるので、オオアワダチソウと呼ばれる。セイタカアワダチソウに似ているが、花期は7~8月。茎、葉共にざらつかず頭花はややまばらにつき少し大きい、などが異り、セイタカアワダチソウの花期には地上部は枯れている。

図1：全形×0.6 図2：頭花×4 図3：舌状花×5
図4：筒状花×5 図5：総苞片×5

採集地 新潟市五十嵐三の町



オオアワダチソウ

1990.7.17 新潟市五十嵐三の丁

K. Kobayashi

セイトカアワダチソウ (きく科)

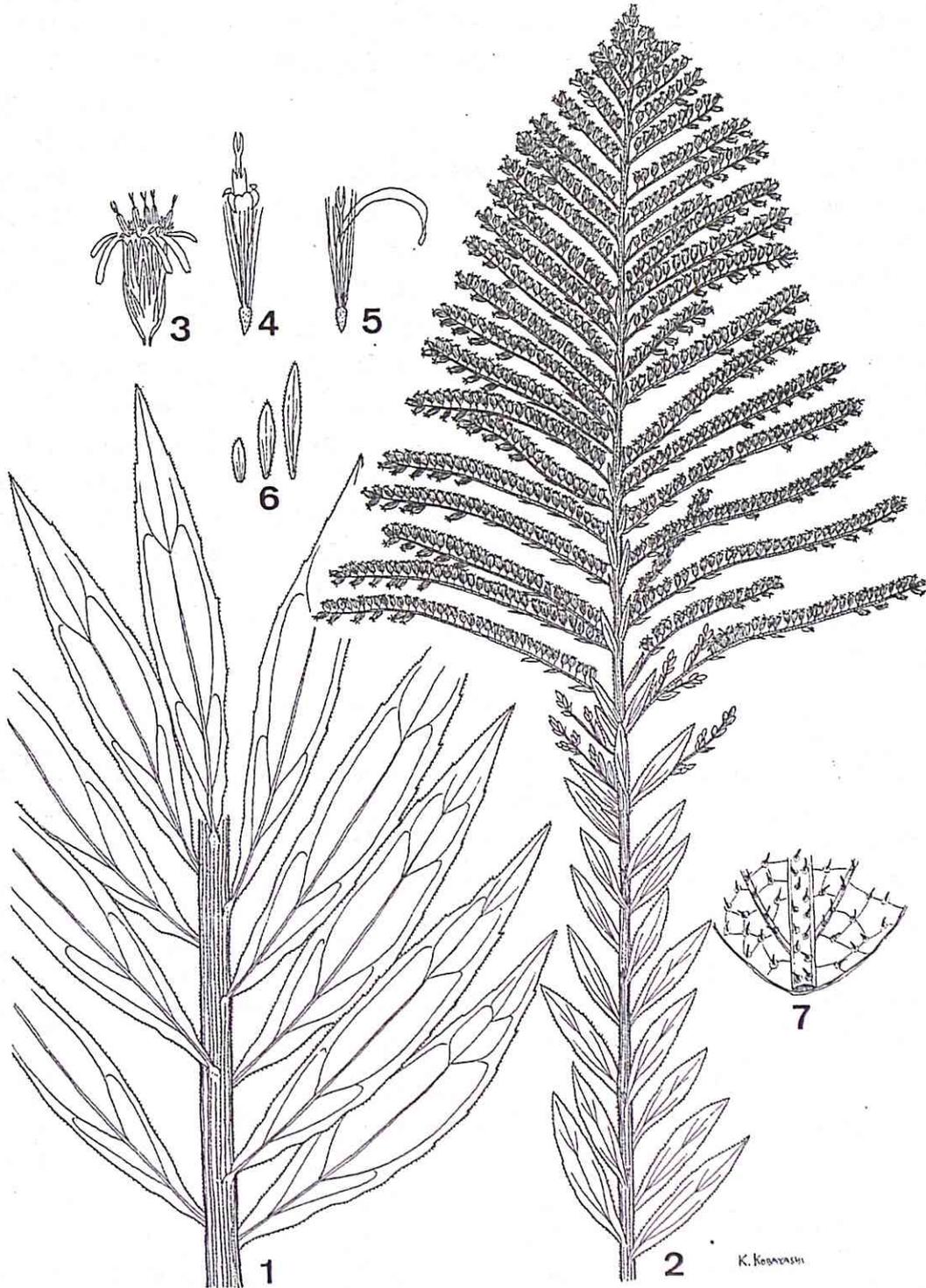
生育地、生育型：荒地や空地などに生える多年草。

茎、葉：地下茎を長く横にはう。茎は高さは 150~200cm で普通上部で枝分かれする。葉は花期には下部の葉は枯れるが中・上部のものは密に互生し、茎と共に短毛があつてざらつく。

花・果実：花期は10~11月。茎の上部に大きな円錐形の花序をつくり、多数の黄色の花をつける。舌状花は15個前後ある。果実(そう果)は長さ1mmぐらいで冠毛は汚白色である。

ノート：新潟市内ではオオアワダチソウよりは少ないようだ。花粉病の原因植物として知られている。北米原産の帰化植物。

図1：茎の中部と葉×0.5 図2：茎上部と花序×0.5
 図3：頭花×4 図4：筒状花×35 図5：舌状花×3.5
 図6：総苞片×3.5 図7：葉の下面×3.5
 採集地 新潟市内野町新川土手



セイトカアワダチソウ (きく科)

1990.10.20 新潟市内野町新川土手

こばやしこうじ 〒950-21 新潟市五十嵐三の町9148